

第3回学校評議員会を開催しました。今回は、宮永尚氏 村上健氏が来校し、児童との懇談、モジュール参観、学校評価等についての協議などを行いました。



学校評議員と児童との懇談では、「新型コロナウイルスへのマスク対応が変わろうとしているが、マスクを外すことについてどう考えるか?」「“グローバル”について、どう受けとめているか?」「フリートークで何を学んでいるか?」「将来の夢は?家族に将来の夢を語っていますか?」といった質問に、児童3人が次々に答えていきました。

一部抜粋して紹介します。

評議員「グローバルリーダーを教育目標にしていますが、グローバルについてどう考えていますか?」

児童A「最近、外国の方が日本を訪れることが多くなりました。そうした中でコミュニケーションを図るのに必要な道具として、英語があると思います。」

児童B「会話や関係をつなげるためのものとして英語に限らず他の国のことばにもふれたいです。」

児童C「将来、職業に就くときにも必要不可欠だと思います。」

評議員「英語はもちろん大事なツールですが、様々な国の人と仲良くしたり、一緒に働いたりしていく時に、英語以外に、どんなことが大事だと思いますか?」

児童A「その国の人の文化を知っておくとよいと思います。」

評議員「例えばどんなことがあるでしょうか?」

児童A「一番驚いたのは、手の仕草とか、日本と違う国があります。」

評議員「なるほど。話をつづけてください。」

児童B「日本にも、他の国にもよいところがあるので、お互いの良いところを交流できるとよいです。」

児童C「文化の違い。こっちの国ではだめだけど、こっちの国はよいということがあります。そういうことを知っておくと外国の人とも友だちになりやすいと思います。」

評議員「確かに、例えば、時間通りに集合するというのは、日本人独特の文化なんですよ。アメリカでは、パーティーでは、早く行きすぎると失礼になったりする。他にも、食べ物のこともある。インドで

は、豚は神聖だから食べられない。イスラムでは、けがれているから食べられない。同じ食べられないでも理由が違う。“こんなの常識でしょ”が、日本だけの常識ということもある。・・・以下省略

評議員「附属がフリースペースをはじめて 8 年くらい。歴史的にはまだ浅いと思うのですが、フリースペースについて、どう思っていますか？」

児童A「朝の短い時間に、やっているんですけど、一つのテーマで、いろいろな人の違った考えを知れるところがよいと思います。」

評議員「テーマを決めた人は話しやすいかも知れませんが、人が決めたテーマだと話しづらい人もいるのではないですか？」

児童 A「僕のクラスでは、テーマを決めたら、近くの人とそのテーマについて話す時間が設定されていて、そこで話したことをもとに、みんなの前で話すようにしています。」

評議員「そうなんですね。話を続けてください。」

児童 B「フリースペースは、一つのテーマで、お互いの意見を交流して、いろいろな考え方がわかるので、とても良い時間になっています。」

児童 C「日常会話で出ないこと、たとえばドラえもんがいたらどうするか、とか話すと、面白い意見が出たりして、ぱっと笑いがでて、みんなとの仲も深められるので、とてもいい時間だと思っています。」

評議員「今、聞いていて、自分の思っていなかった友達の別の面を知ることが勉強になっている、ということがわかりました。学校では、勉強もスポーツも本分で大事ですが、社会に出るとコミュニケーションがとても大切になります。勉強などとは違う一面をきっかけとして、会話が広がるという点では、様々な経験をしていくことが大切ですね。・・・以下省略」



1年生 「性の多様性」の授業を観察



6年生 「外国語」の授業を観察



総合的な学習の時間の成果物を観察



5年「外国語」の授業を観察

# 令和4年度第3回学校評議員会 議事録概要 (大分大学教育学部附属小学校)

## 1. 日時

令和5年2月24日(金) 13:00~15:00

## 2. 場所

附属小学校会議室

## 3. 参加者

### (学校評議員)

宮永 尚氏 村上 健氏 柳澤好治氏(欠席)

山香 昭氏(欠席)

### (附属小学校)

木村 典之(校長) 櫻井 弘美(教頭)

眞田 貴弘(主幹教諭) 桐野 愛(指導教諭)

6年生児童3名

## 4. 当日の内容

### (6年生児童3人との懇談)

宮永: 今後、マスクは付けたままの生活を送った方がよいと思いますか。それとも取った方がよいと思いますか。

6年: マスクは付けたままの生活を送ると思います。

宮永: 付けたままの理由を教えてください。

6年: 他の感染症もあるし、少しだけ恥ずかしさもある。まだ心配ということもあります。付けていないことで不快感を持つ人もいますからです。

宮永: 相手の表情とか知りたいなとか思わないですか。

6年: そこまで知りたいとは思っていません。

宮永: 外にいても同じようにマスクを付けますか。

6年: 場所によるかなと思います。

宮永: マスクを付けること自体がエチケットと思っているのかな。

6年: そうです。

村上: 「グローバル」をどのように受け止めているのか教えてください。

6年: コミュニケーションをとるための道具として外国語を学ぶことだと思っています。関係を築くこともそうです。将来職業に就く時、英語が必要だと思っています。そのためにも、今学ぶことが大切だと思っています。

村上: 英語を話すこと以外で、他の国の人と仲良くするためには何が重要だと思いますか。

6年: 文化、よい所を知ることだと思います。

6年: 日本ではよいことが、外国ではよくないことがあるので、その知識が必要だと思います。

村上: 例えば、時間を守ることは日本の特徴的な文化ですよね。外国では早く行き過ぎると失礼になることもあります。中学校に行く時、学んだ事が経済と繋がっていたり、環境問題と繋がっていたり、いろんな事が世界と繋がっていることが分かります。そういった意識で学んで欲しいと思います。

宮永: 社会に出ると、コミュニケーションの力がとても大切になりますが、フリートークについて感じていることや思っていることを教えてください。

6年: いろんな意見を知ることができるのがよいと思います。

宮永: テーマによっては意見が言いにくい人もいますか。

6年: 私のクラスでは、近くの人とテーマに沿って話をした後、意見を言うようにしています。

6年: お互いの意見を交流して、自分とは違う意見に触れることができるのがよいと思います。

6年: 日常会話では話さないことが話せるし、みんなとの仲も深めることができるのがよいと思っています。

村上: フリートークもグローバルと同じ考え方だと思います。違いを知ったり、受け入れたり、尊敬したり、そこが同じだと思います。中学校に行っても大切にしたい考え方です。

村上: 将来の夢を教えてください。

6年: 父になって、町作りをしたいと思っています。

6年: 写真家になりたいと思っています。

6年: 医療関係の仕事に就きたいと思っています。

主幹: 学校評議員さんと話をした感想を教えてください。

6年: 学校の先生以外の人と話せて自分の意見をしっかりと言うことが楽しかった。

6年: 思ったことを率直に言えたことがよかったです。将来のことは親にも言っていなかった。初めての事だったけどしっかりと伝えてよかった。

6年: フリートークなどは当たり前と思っていたけど、いいところを改めて実感することができてよかった。

### (学力調査の分析について)

指導: 第2回学校評議員会の後、全国学力調査とアセスアンケートを使用して大学に分析をお願いしました。国語、算数、理科の「正答率」、「正答数」を従属変数として、学力状況調査の「質問紙アンケート」と「アセスアンケート」の質問紙を使用して重回帰分析を行っています。国語の知識技能の正答率は、友人サポート因子と質問(41)の影響が予測できそうとなっています。国語の正答数は、学習的適応の影響が予測できそうとなりました。理科の思考・判断・表現の正答率は、質問(45)の影響が予測できそうとなりました。

柳澤: (事前に頂いた紙面コメントを主幹が代読)

村上: 質問紙で「当てはまらない」と選択した子が他の項目でも「当てはまらない」と選択しているのかが気になります。

指導: 個人の回答は分かるので、追跡は可能です。

主幹: 私たちは、「当てはまる」と答えた児童に着目しがちですが、「当てはまらない」と答えた児童の着目をおろそかにしていたかもしれないことに改めて気付かされました。

宮永: 分析の結果、国語、算数には関係性がありそうで、理科には関係性が無さそうということでしょうか。また、これは附属にだけ関係のある話ということでしょうか。

指導: 分析結果は、附属に限ってのことです。正答数について言えば、国語と算数は関係性がありそうということ、理科は関係性について何も分からなかったということです。

主幹: 「当てはまらない」と答えた児童が経過とともに解消されていくかどうか見ていくことも必要なかもしれないと思いました。

村上: 質問紙の場合、自分に厳しく回答する児童もいると思います。

主幹: 具体的な児童を掴むことをやっていきたいと思っています。

宮永: 分析は、他にも細かく行いましたか。

## 令和4年度第3回学校評議員会 議事録概要 (大分大学教育学部附属小学校)

主幹：大学によると、分析は無限にできるとのことです。そのため、的を絞って分析をしてくれています。来年度も同じ視点で継続した分析も可能ですし、違う視点についても分析は可能です。

### (学校評価について)

主幹：(別紙2のように説明)

柳澤：(事前に頂いた紙面コメントを主幹が代読)

村上：CRT検査の知識・技能と思考・判断・表現の数値が同じになっていますね。

主幹：たまたま同じ数値になりました。結果を見ると、知識・技能と思考・判断・表現の両方とも成果が現れたと思っています。

村上：体力テスト、笑顔アンケートは、コロナの影響がありましたか。

主幹：体力テストについては、令和3年度はよい結果が出ています。コロナの影響があると思っていたので驚いています。令和4年度は、男子も女子も総合得点で全国平均を上回りました。ただ、女子のソフトボール投げが全国平均より1m低い結果でしたので、課題がはっきりしました。笑顔アンケートは、例年、3回目の結果が低くなる傾向にあります。本年度の6年生は、3回目で伸びました。今までとは違う傾向でした。

宮永：先生方の年休取得率が上がってきていることは、とても評価できます。その裏で家に仕事を持ち帰っていることはないかを心配しています。先生方は、パソコンを家に持ち帰っていませんか。

主幹：パソコンの持ち帰りはしていません。

宮永：パソコンの持ち帰りはしていないが、データの持ち帰りをしているかもしれないので、今後、そういった項目も調べてみるとよいかと思います。かつての附属は不夜城のような学校でしたが、保護者としては先生方が頑張ってくれているということで、ありがたかったです。でも、今はそういう時代ではありません。ひとりひとりの先生方が働き方改革の意識をもってほしいと思っています。また、先生方にも「グローバルリーダー」を意識して欲しいです。市町村の学校に戻った時、附属で付けた力を遺憾なく発揮して欲しいと願っています。それが大分県全体の教育レベルを高めると思っているからです。附属は、地域の教育的立場としての存在感があるし、そうなって欲しいと思っています。大人が大人を指導するのは難しいと思いますが、職員のみなさんは、いずれ管理職になっていく先生方だと思うので、頑張ってください。

主幹：働き方改革の話になると、どこまでが仕事で、どこからが自己研鑽なのか判断することが難しいと思っています。学校としては、勤務時間内での仕事時間の確保に向けて改善を図っていて、持ち帰り仕事は無いという認識です。一方で、先生方の認識は違うかもしれないので、認識の乖離をどう埋めていくかが課題となります。

宮永：働き方改革のツールでいうと、「グーグルフォーム」を利用してアンケート調査などができますが、そういったことはしていますか。

指導：児童に回答してもらった「アセスアンケート」と「笑顔アンケート」は本年度から「グーグルフォーム」を利用するようになりました。時間短縮とミスを防ぐことにもつながったと思っています。「グーグルフォーム」を活用できる職員は、まだ一部に限られています。

すので、他の職員も活用できるように広げていきたいと思っています。

主幹：学校評価の保護者に聞いた4点はグーグルフォームを使用して集計しています。

宮永：例えばアウトソーシングを活用して時間短縮に繋がることのできるのであれば、試してみるのもいいかもしれません。生産性が上がって時間効率化できるのなら費用対効果があると思います。

主幹：「生産性」「費用対効果」「時間効率」などは、企業に比べ意識の低さは否めません。職員にも大切な視点であると日頃から伝えていますが、なじまない考え方だと思う職員も居るかもしれません。社会は、常に変化していますので、全ての可能性を考えて行動していくことが大切だと思っています。今回、宮永会長の話聞いて、改めて大切な視点であり、方向性として間違っていないと感じることができて勇気づけられます。

宮永：ありがとうございます。すごく大切な事だと思います。生産性は常に求められます。そういう意識を先生方が取り入れていくことで、子供たちにいい教育を与えることができると思います。

村上：同じように重要だと思います。先生方は、全部やらなければならぬ現実がありますが、学校では一般的には無いアウトソーシングを導入したら驚くほど変わることができます。実際、大学も変わっていききました。

宮永：昔は、熱血先生が求められていたが、今の時代は先生方のワークライフバランスが大切で、プライベートも充実していかないといい仕事ができないと思っています。試せることをどんどん取り入れていく姿勢が大切だと思います。

主幹：学校評議員の皆さんの話はとても重要だと思っています。また、後押しにもなります。今後も改善に向けて取り組んでいきます。

村上：男性の育児休暇等はどうなっていますか。

主幹：令和元年度に3ヶ月育児休暇を取った職員がいました。

宮永：そういった環境が整っているということですね。

主幹：歴代の管理職がさまざまな配慮をしてくれています。

### (お礼)

校長：本日は、マスクの話から社会とのつながりを意識した懇談になり、子どもたちの本音も聞くことができました。子供たちにとってもいい時間になったと思います。グローバル、文化、そして違いについても触れて頂き、大変ありがたかったです。先生方もグローバルリーダーになって欲しいという話がありましたが、まさにその通りだと感じました。これからも様々な取組を進めていきたいと思っています。本日はありがとうございました。

宮永：最後に、今後の生活において、マスクを外さないことでいろいろ影響が将来出てくると思っています。できれば、マスクを外すような生活になって欲しいと思っています。

主幹：自らの判断で適切にマスクの脱着ができる子供たちを育てていきたいと思っています。令和5年度第1回の学校評議員会において子どもの姿でお示しできるとと思いますので、お待ちしております。以上で、本年度の学校評議員会の全てを終わります。